

株式会社 ダンボールワン

[業種] ダンボール・梱包材の企画・製造・販売

事業
計画名

ユニバーサルデザインパッケージ開発
に向けたデザイン技術の高度化

◆代表者名 代表取締役 辻 俊宏
◆設立年月日 昭和53年5月4日
◆所在地 〒920-8203
石川県金沢市鞍月4丁目133番地
◆TEL 076-111-1111
◆FAX 076-222-2222
◆URL <https://danballone.com/>
◆E-mail s.maeda@danballone.com
◆従業員数 70人
◆資本金額 50,000千円



CAD/CAM連動カッティングマシン

事業に取り組んだ経緯・背景

当社は大手家電メーカーの下請けとして主に段ボールなど梱包資材の供給を行ってきたが、顧客工場の移転統合などでその方面の需要は厳しい状況下にあった。一方、本事業に取り組む10年ほど前から始めたインターネットによるダンボール販売事業は順調に推移し、当社の売り上げの半分以上を占めるまでになっていた。当社の強みは包装資材における設計力、提案力、デザイン力にあり、ECサイトにおいてその力を存分に発揮するには、さらに極短納期化、小ロット化、低価格化の実現が求められていた。この課題に対応するため、CAD/CAM連動カッティングマシンを導入し、商品開発期間の短縮と、顧客の多様なニーズに応えるデザイン力と設計力のさらなる向上を図った。

事業内容

ダンボールの試作開発～販売は、①形状・寸法・材質等の検討、②木型メーカーに図面データを送り、サンプルの依頼を行う、③サンプルを確認し、形状・寸法に問題ない事を確認する、④確認後に木型の制作の依頼を行う、⑤木型が到着した後に材料を手配し製造を行う、⑥ホームページ上で販売を行う、という手順となる。本事業ではCAD/CAM連動カッティングマシンを導入し、手順①～③を自社内で行うことが可能になった。①については社内で現物を確認出来るようになるので時間をかけず詳細な商品開発を行えるようになった。②と③もそれまでと異なり社内で行えるようになり、更なる時間短縮が可能になった。CAD/CAM連動カッティングマシンの操作習熟訓練に際しては、当社グループ会社で包装資材メーカーの(株)ペー

パーワールドに協力を依頼し取り組みを推進し、設計・開発・試作（現在試作担当は不在）を一元的に管理できる責任者の育成を行った。本事業では試作を繰り返しながら新たな生産方式の確立に取り組んだが、その過程において、災害時等に役立つ「緊急用段ボール式トイレ」や、カッター不要で簡単に開梱できるユニバーサルデザインの「らくらく開封箱」の試作などを行った。

事業の成果

本事業により1点につき最低でも14日以上要していた試作開発期間が、外注先に頼ることなく最短で1日で行うことが出来るようになった。顧客からのオーダー、自社開発を問わず、複雑な形状・デザインの製品開発が可能になり、多様な商品を短期間で市場浸透させることが可能になった。また、カッティングマシンの活用によりプラスチックダンボールの生産も行うようになり、既存分野以外の客先との取引も始まった。



ECサイトの商品例

事業の現在の状況

時代を先取りし本事業に取り組んだことを契機として、現在当社のECサイトは、超多様な商品種・即日見積・極短納期・極小ロット・低価格など、同業・同様サイトに対して圧倒的な優位性を実現している。その結果、ヘビーユーザーだけでなく広範囲に、「お急ぎ、小規模、パーソナル」なユーザーからも大きな支持を得ている。会社自体も本事業に取り組んだ平成27年頃とは大きく様変わりしている。コロナの影響により巣ごもり需要が発生したこともあるが、当時の売上高490百万円であったものが、令和3年7月期には10倍以上の50億円を突破する見込みとなっている。ダンボールのインターネット販売では「売上高」、「受注件数」とも1位であり、4年連続で国内シェア1位の地位を確保している。利用者数を示す「ユーザー数」「レビュー数」「売上高伸び率」も1位で、5冠を達成することもできた。



株式会社ダンボールワン 本社

【得意分野】

段ボール製品の低価格・即日発送

【主要取引先】

ECサイトでの個人・事業者

【商品】

ダンボール箱、包装資材

【代表者からの一言】

全く取り組んだ事もノウハウもなかった成型方法への挑戦を、ものづくり補助金によって後押しをして頂きました。試行錯誤しながら目的の成型法を確立できたことは大きな成果となりました。今後は今回確立した成型方法も含め、永年取り組んできた浄化槽製造のための様々なFRP及びプラスチックの成型・加工技術を、浄化槽以外の自社製品開発ならびに受託生産の請負など事業の拡大に活かしていきたいと考えております。



代表取締役 辻 俊宏